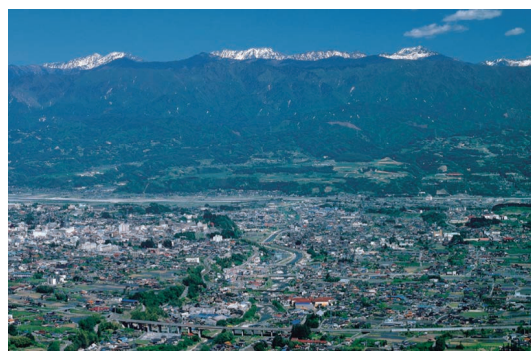


「環境」を軸としたまちづくりで
「日本一住みたいまち」に

飯田市は、東西を南アルプスと中央アルプスに守られた、長野県19市の中で最も南にある市です。長野県と聞けば雪深いところをイメージするかもしれませんが、雪はあまり降らず、晴天率が高く年間日射量は静岡県や宮崎県に匹敵する、四季がはっきりした暮らしやすい気候のまちです。植生の北

限と南限が交わり、文化も東西の融合点に当たる、多様性のまちでもあります。



アルプスに囲まれた飯田市の風景

中央自動車道の高速バスで、新宿から4時間、名古屋から2時間。それぞれ1日10本以上の便があるので、思うほど不便では

ありませんが、この時間距離がネックとなつて、若者の流出が続いているのが地域の構造的な課題です。近い将来、リニア中央新幹線が開通すると、品川まで45分、名古屋まで25分で結ばれますので、ここに住みながら世界を股にかけて活躍できる環境となりますが、それまでの間にさらに魅力（個性）あるまちづくりを進めたいと考えています。

人々に今も息づく
「りんご並木の精神」

本市の中心市街地には、りんごの並木があります。

戦後間もない昭和22年に、飯田のまちは大火に見舞われ、市街地の7割以上（約48万㎡）を焼失しました。

大火からの復興計画で防火帯を



地元中学生によるりんご並木整備

兼ねてまちの真ん中に作られた広い道路に、当時の中学生がりんごの並木を作ろうと立ち上がりました。当時の大人たちは、りんごは育てるのが難しい、りんごの実を盗む人が出ることも心配だ、と反対しましたが、中学生たちは、「ぼくらは、赤い美しい実をみの

らせることによって、町を美しくするばかりでなく、町の人々の心をも美しくしてゆきたいのだ。そうした社会的精神が、町じゅうに行きわたる時、はじめて、この飯田市の復興も達成されるのだと思う。」（新潮文庫『心に太陽を持って』（山本有三編著）より）と大人たちを説得し、りんご並木を作り上げたのです。

この「自分たちのまちを自分たちの力で良くしようとする」精神、「公民館的アプローチ」と言われる飯田のまちづくりの在り方こそ、コロナ禍で人と人との結びつきが希薄化したと言われる昨今、改めて大事にしなければならぬ「肝」と考えています。

目指すべきは
「上質なローカル」
「環境」を軸としたまちづくり

近い将来、飯田にはリニアの駅ができることになりましたが、このリニアをどう迎えるかが問われています。



グリーン水素発生の様子（信州大学）



リニア駅のイメージ図

私としては、飯田を「東京の劣化コピーのようなまち」にはしたくないと思っています。いたずらに都市的なものを追い求めるのではなく、飯田の自然風土、文化、先人の皆さんが築いてきた「暮らしの豊かさ」をしつかり守っていくという視点を大切に、リニアの利便性とこの地域の「らしさ」を兼ね備える「上質なローカル」を目指す、と申し上げています。

その際、キーコンセプトとなるのが、「環境」を軸とした「まちづくり」です。本市は、これまでも「環境文化都市」を標榜し、太陽光発電を中心とした再生可能エネルギーを活用したまちづくりを進めてきており、令和3年3月に「2050 いだゼロカーボンシティ宣言」、令和4年11月

には環境省「脱炭素先行地域」への選定、令和5年12月には本市が実証タウンとなる信州大学のグリーン水素・水循環の研究が「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」に採択、そして令和6年2月にはセイコーエプソン社のバイオマス発電所建設計画発表と、「環境」を軸としたまちづくりは、一步一步、着実に進んできています。

特に、信州大学が行う「水と太陽光から光触媒を用いて水素を取り出す」グリーン水素の研究は、水素の製造コストを大幅に引き下げ、世界のエネルギー事情を変える可能性のあるノーベル賞級の研究であり、実証タウンとして社会実装を目指しています。

環境先進企業、環境関連産業を中心とした企業が集積し、その集積がさらなる集積を呼ぶという形で産業・経済の活性化を思い描いているところです。

Sustainable Survivableなまち IIDA

水・空気・日光・森林という人間の生存に必要な資源が揃い、食料

もある程度生産できる本市は、それを地域で循環させる仕組みを作れば、よりsustainable（持続可能）なまちになります。

加えて、二つのアルプスに守られて安全性も高いですし、「りんご並木の精神」を持つ市民力がありますから、いざというときのレジリエンスも高い。私は、日本全

プロフィール

- ◆ 面積 658・66 km²
- ◆ 人口 9万4193人
- ◆ 世帯数 4万345世帯

〔将来都市像〕「環境」に関する取り組みが市民の「文化」と言えるまでに昇華した、人も自然も輝く「環境文化都市」

〔まちの特徴〕3000m級の山々と天竜川の豊かな自然に恵まれ、四季の変化に富み、山・里・街の多様な暮らしが実現できるまち。リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通を控え、精密機械産業のほか、水引などの伝統産業も盛ん。人口当たりの焼肉店舗数日本一の「焼肉のまち」



飯田市長
佐藤 健



〔市町村合併〕平成17年10月1日、飯田市、上村、南信濃村の1市2村が合併

〔特産品〕水引、半生菓子、市田柿、りんご、精密機械・電子・光学などのハイテク産業

〔観光〕名勝天龍峡、天竜川下り・ラフティング、元善光寺、猿庫の泉、しらびそ高原、下栗の里、南アルプスエコ登山

〔イベント〕いいだ人形劇フェスタ、オーケストラと友に音楽祭、焼肉ロックフェス、遠山霜月祭、ツアー・オブ・ジャパン信州飯田ステージ

体で最後に生き残るのは飯田だと真剣に思っています。生き残るまち Survivable City IIDAです。

「環境」を軸としたまちづくりを進め、「りんご並木の精神」で市民が自ら誇りと愛着を持てるまちを創っていく中で、2050年、飯田は「日本一住みたいまち」になっていると確信しています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「持続可能なまち・佐倉」の実現に向けて

佐倉市について

佐倉市は、千葉県北部、下総台地の中央部に位置し、都心から約40 km、成田国際空港から約15 km、千葉市から約20 kmの距離にあり、面積は103.69 km²で、北部は印旛沼に川が注ぎ、西部は首都圏のベッドタウン、東部・南部は農村地帯が広がる中、工業団地が立地し、緑豊かな自然と都市の利便性をともに享受できるまちです。

若者の発想と行動力を生かしたまちづくり およびさまざまな 主体との連携の推進

市制施行70周年の節目となった令和6年は、将来に希望の持てる、「持続可能なまち・佐倉」の実現に向け、新たな一歩を踏み出す転機



佐倉市市制施行70周年記念事業「佐倉青春文化祭」（記念撮影）

となりました。その一つが、令和6年2月に締結した市内五つの県立学校との包括連携協定です。令和6年10月に、70周年記念事業として開催した記念式典や青春文化祭が盛会裏のうちに終了できたことは、県立学校の生徒の皆さまに、若者ならではの発想と行動力を生かし、主体的に取り組んで

いただいた成果であり、本市喫緊の課題である、少子高齢化、人口減少の解消に向けたヒントを示唆してくれたものと大変強く感じました。

一方、社会全体を俯瞰してみると、物価高騰や気候変動など、極めて広範な課題が山積しており、国や県、周辺自治体といった公共機関はもとより、民間企業や学術機関など、多様な主体と連携した取り組みの重要性を再認識いたしました。

特に、地球規模での取り組みが重要となる気候変動対策については、まずは本市自らが模範を示すべきとの考えに基づき、令和6年4月1日、県内市町村では初めてとなる『佐倉市気候変動適応センター（気候変動対策室）』を設置しました。また、「持続可能な開発



根郷小学校でのESD

のための教育（ESD）」を市内小中学校で開始するなど、国立環境研究所や農研機構などの関係機関と連携したさまざまな取り組みに着手しております。

これら多角的、多面的な取り組みを通して、本市の人材育成を図り、「持続可能なまち・佐倉」の実現に向け、市民の皆さまと共に、引き続き、オール佐倉でまちづくりを進めてまいります。

気候変動対策の推進

本市では、地球温暖化の進行に



田んぼダム (飯田)



オランダ風車とチューリップ

に伴い、深刻化が懸念される気候変動への対策を進めていくため、「佐倉市気候変動適応センター」を設置し、「佐倉市気候変動対策行動計画」を策定しました。

市民の皆さまの安全な暮らしを守り、安心して暮らせるまちづくりのために、当計画に基づき、国や県などの関係機関と連携しながら、気候変動に対する市民意識の醸成、緩和と適応などの取り組みを進めています。

なお、本市が気候変動対策を積極的に取り組む理由といたしましては、

①印旛沼を擁する下流域のため、流入河川の氾濫や、近年のゲリラ豪雨の頻発化などによる内水氾濫リスクの増大。

②熱中症リスクの指標となる『暑さ指数』が、令和5年6月から8月においては、熱中症警戒アラートが発表

される基準である「33以上」となった延べ時間数が全国1位となった。

③地球温暖化の要因となる二酸化炭素を吸収できる「緑」が豊富であることや、里山や竹林などの「緑」を保全する民間の取り組みが活発に行われているなど、気候変動対策の二本柱である「緩和」と「適応」を推し進める土壌が整っている。

④気候変動適応法では、地方公共団体の責務として、気候変動適応に関する施策推進、地域気候変動適応計画の策定や地域気候変動適応センターの機能確保について努力規定としている。

⑤令和元年の台風・大雨で甚大な被害を被った。

以上の理由から、本市の喫緊の課題である「気候変動対策」について、本市が率先して行動し、周辺自治体の模範となるよう取り組むべきと考え、令和6年4月からスタートした第5次佐倉市総合計画中期基本計画の重点施策に位置付け、各種の取り組みを進めています。

(1)市民意識の醸成…気候変動対策は、市民一人一人の理解と協力が不可欠であるため、広報紙やSNSなどの多様な情報媒体を活用し

た気候変動に関する情報発信、学校の授業などでの気候変動に関する学習(ESD)の実施など。

(2)適応策の推進…本市の気候変動の影響による洪水や熱中症のリスク被害などを軽減するため、佐倉里山自然公園などの里山環境の保全や田んぼダム協力者への支援、クーリングシェルターやさくら涼み処の設置など。

(3)緩和策の推進…温室効果ガスを削減し、気候変動を抑制するため、

プロフィール

◆面積 103.69km²
◆人口 16万9243人
◆世帯数 8万662世帯

〔将来都市像〕笑顔輝き佐倉咲くみんなで創ろう「健康・安心・未来都市」
〔まちの特徴〕歴史(武家屋敷や佐倉城址公園など)・自然(印旛沼や里山など)・文化(国立歴史民俗博物館や二つの美術館など)のまち(※豊かな自然と城下町としての歴史に育まれた文化のまち)



佐倉市長
西田三十五



〔特産品〕米(コシヒカリ、粒すけ、ふさこがね)、ヤマトイモ、サツマイモ、落花生、ブルーベリー、ユリなど
〔観光〕国立歴史民俗博物館、佐倉城址公園、佐倉ふるさと広場、武家屋敷、佐倉市立美術館など
〔イベント〕佐倉チューリップフェスタ、佐倉市民花火大会、佐倉の秋祭りなど

佐倉里山自然公園をはじめとする里山や森林の保全整備、公園の植栽などの緑化の推進、住宅用省エネルギー設備などの導入支援や公共施設などにおけるESCO事業の実施など。

佐倉市の未来を守るため、「緩和策」と「適応策」について、政策連携や地域連携など、多様な連携強化を図り、効果的・効率的に推進してまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

チェンジ！さらに前へ
新しい志摩市を目指して
自慢できる

志摩市は、日本のほぼ中央、三

重県の志摩半島南部に位置し、市内の全域が伊勢志摩国立公園に指定されるなど、美しく豊かな自然環境と人々の暮らしが調和した魅力あふれる地域です。複雑に入り組んだリアス海岸が生み出す風光明媚な景観に加え、真珠養殖産業発祥地である志摩市がお届けする、世界に誇る名産の真珠や、伊勢えび、海藻など豊かな海の幸に

民俗文化財に指定されています。

活気ある持続可能な
観光地域づくり

志摩市は、豊かな自然、食、文化といった地域資源を最大限に活用し、持続可能な観光地づくりに積極的に取り組んでいます。シーカヤックやSUPなどのマリンスポーツやティビティをはじめ、新鮮な魚介類を味わえる海女小屋体験など、志摩ならではの食や自然体験プログラムを充実させています。さらに、全国各地から数多くの観光客が訪れる横山展望台や美しい花々が一面に咲き誇る志摩観光農園を巡る観光周遊バスを運行するなど、新たな観光客層の開拓や観光客数の拡大を目

指しています。令和6年度には外国人観光客の誘致を促進し、市内観光産業全体の活性化を図るため、「志摩市インバウンド協議会」を設立しました。私自らがアジア各国へトップセールスを行い、現地の旅行会社に対して志摩の魅力を紹介するプロモーションや商談会を開催しました。これらの取り組みを通じて、志摩の食や特産品の潜在的な魅力、そしてこの地域の素晴らしさを改めて実感しました。海外では定番の観光地だけでなく、地方都市への関心が高まっています。



英虞湾（リアス海岸）

恵まれ、古くから「御食国（みけつくに）」として知られる、日本屈指の食のブランド地域です。また、二千年以上の歴史を持つ海女の伝統漁法は、「鳥羽・志摩の海女漁の技術」として国の重要無形

文化財に指定されています。



香港旅行会社へのトップセールス

志摩の魅力積極的に発信し、新たな旅行商品を開発すること、より多くの外国人観光客を戦略的に誘致したいと考えています。



市内に新しく建設された津波避難タワー

強靱な防災・減災対策の推進
きょうじん
南海トラフ地震などの大規模災害への備えとして、「逃げ遅れゼロ」を目標に、特に津波からの避難が困難な地域においては、津波避難タワーの整備を重点的に進めています。令和6年度には新たに3基の津波避難タワーが完成し、現在6基の設置が完了しました。令和10年度までにさらに4基の建設を計画しており、地域住民の安全確保を着実に、かつ迅速に進めています。さらに、能登半島地震



志摩市災害対策用トイレトラック



サードアイ

組みます。今後は、避難所の衛生環境を向上させるため、水質センサーとAIによる水処理最適化機能を備えた循環型シャワー（WOTA）を2基導入する予定です。これにより、孤立地域における避難所の衛生環境の確保に大きく貢献できるものと期待しています。

また、市消防本部では、情報収集を行う消防隊員の安全確保や災害現場の状況把握を迅速かつ効率的に行うため、「スマートグ



横山展望台から望む英虞湾の風景

におけるトイレ不足の課題を踏まえ、災害対策用トイレトラックを導入しました。あわせて県内の自治体で初めて「災害派遣トイレネットワークプロジェクト」に参画し、全国の自治体と連携して災害時の

スマートシティを目指した自治体DXの推進

ラス・「AI」・「ドローン」の融合による最先端救助支援システム「3rd-EYE（サードアイ）」を導入し、消防活動の高度化を図っています。

人口減少や高齢化が進む中、持

続可能な地域社会を実現するため、自治体DXの推進は不可欠です。志摩市は、国内で初めてグー

グル・クラウド・ジャパン合同会社、ソフトバンク株式会社と連携

協定を締結しました。職員がデジタル技術に関する知識とスキルを

習得し、デジタル技術を活用した業務プロセスの自動化や生成AI

による業務効率化などにより、職員は定型業務から解放され、より

高度な業務や市民の皆さまとの対面業務に集中できるようになります。

結果として、市民サービスの質の向上や職員の負担軽減、行政

コストの削減が期待できます。また、デジタル技術を活用した行政

サービス幅広く展開し、市民の皆さまが利便性の向上などを実感

できるよう、自治体DXの推進に取り組んでいます。

結び

令和7年11月には、志摩市および南伊勢町で「第44回全国豊かな海づくり大会」が開催されます。この大会は、志摩市の魅力やさまざまな取り組みを全国に発信する絶好の機会です。大会を契機に、沿岸域における持続可能な資源管理や保全活動への機運を高めるとともに、観光振興、防災・減災対

策、自治体DXなど、さまざまな取り組みを通して、市民一人一人が安全で安心して豊かに暮らせるまちづくりを推進します。そして、誰もが住みやすく、訪れたい魅力的な地域であり続けるため、「チェンジ！さらに、前へ」をスローガンに掲げ、子や孫の世代へ「自慢できる志摩市」の実現に向けて、取り組みを加速させてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 178.93 km²
- ◆ 人口 4万3743人
- ◆ 世帯数 2万2412世帯

〔目指すまちの姿〕子や孫の世代へ「自慢できる志摩市」

〔まちの特徴〕市内ほぼ全域が伊勢志摩国立公園に指定され、美しく豊かな自然と暮らしが調和し、歴史ある文化が根付き、四季折々の食に恵まれた魅力あふれるまち

〔市町村合併〕平成16年10月1日、浜



志摩市長
橋爪政吉



島町、大王町、志摩町、阿児町、磯部町の5町が合併
〔特産品〕真珠、伊勢えび、的矢かき、あおりふぐ、あおさのり、南張メロン、きんこ芋など

〔観光〕横山展望台、志摩市観光農園、磯体験施設 海ほおずき、国府白浜、御座白浜海水浴場、ともやま公園など
〔イベント〕志摩ロードパーティ、伊勢志摩・里海トライアスロン、安乗の人形芝居、磯部の御神田、伊勢えび祭、わらじ祭り、潮かけ祭りなど

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「世代を越えて夢紡ぐまち」を目指して

はじめに

吉野川市は徳島県北部のほぼ中央に位置し、日本三大暴れ川の一つで四国三郎の異名をもつ大河「吉野川」の恵みに育まれ、阿波富士とも呼ばれ美しい姿の「高越山」をはじめとする四国山地の急峻な山々が連なる、川と緑のふれあうまちです。また、国の天然記念物



吉野川から望む阿波富士こと高越山

に指定されている「美郷のホタル」約1200株が群生している「船窪のオンツツジ群落」、日本最大の川中島である「善人寺島」など、四季折々の豊かな自然が息づいています。

本市は、平成16年10月1日に旧麻植郡の3町1村が合併して誕生しました。この「麻植」という名前の由来は、古代からこの地にあった阿波忌部の氏族が、「麻」を植えて振興していたことで名付けられた歴史的名称です。市内の山川地区では、天皇即位時の儀式である「大嘗祭」で使われる麻を素材とした「麓服」と呼ばれる織物を調進する役割を担ってきました。令和の大嘗祭においても、この地から麓服を調進するなど、由緒ある歴史と文化が連綿と受け継がれています。

市制20周年を迎えて

本市は、令和6年10月に市制20周年の節目を迎えました。記念事業として、吉野川市と町制70周年を迎えた徳島県板野町の両市町を舞台とした映画「道草キッチン」を共同で制作しました。多くの住民の皆さまにもご協力いただきましたことから、共に映画を作り上げたことで、シビックプライドの醸成にもつながっていくことを期待しています。この映画は、女優で作家の中江有里さんが主演を務め、都会育ちの女性が初めて訪れた徳島の地でさまざまな思いを抱えた人たちと出会い、自然溢れる場所での暮らしや豊かな食材に触れ、これまでの人生では感じなかった体験をする中で、自身の生き方を見つめ直すストーリーとなっています。



映画「道草キッチン」撮影シーン

す。令和7年秋に全国公開される予定ですので、ぜひご覧いただければと思います。

これからのまちづくり

本市は「世代を越えて夢紡ぐまち」を市の将来像とし、市民の皆さまの暮らしや福祉に密着した行政サービスの提供を心掛けながら、特に子育て支援をはじめとした施策の充実に取り組んでいるところです。本年は、これまで建設を進めてきた「新ごみ処理施設」が竣工を迎え、令和7年11月に正

式稼働となります。近隣市町と広域で処理を行ってきた従来までと比較し、処理経費を抑えることができるようになることから、新たに生み出された財源を子育て支援に充てるなど、限られた財源を賢く使うことを強く意識しながらまちづくりを行っています。

現在、地方を取り巻く環境は地域経済の衰退に加え、本格的な人口減少社会に突入し厳しい現実があります。こうした中、私は大きなテーマとして「縮充^{しゅくじゅう}」という言葉を大事にしています。これから人口が減っていくことにただ悲観するだけではなく、そこに住み暮らす人々が日々の生きがいややりがいを持って生き生きと暮らしていく、縮んでいくが充実していくのが「縮充」です。言わば、少数精鋭的な考え方もあります。そして、縮充社会におけるまちづくりは、画一的なものの形成よりも地域の特性や持続可能性を重視し、大切に磨き上げていくことが求められているのではないのでしょうか。

移住定住、にぎわい創出

東京一極集中を是正するために始まった地方創生ですが、東京圏

への転入超過の歯止めはかかっていません。しかしながら、コロナ禍を経たことによって人々の価値観が変化し、テレワークなどの働き方が進んだ中で、地方の自然豊かな環境に魅力を感じてもらえる機会が増えました。そのような中、本市には現在13人の地域おこし協力隊員が首都圏などから移住し、地元のさまざまな企業や団体と連携しながら、地域の新たな担い手として活性化に取り組んでいます。任期を終えた協力隊員が地域に残り、起業した事例も生まれていますので、将来的には絶えず市内の至る所で、協力隊員が活発に活動している環境にしたいと考えています。

また、スポーツによるにぎわい



国内初となるオプスタクルスポーツ吉野川コース

創出にも力を入れています。広々とした人工芝のサッカーコートに有する「ヨコタ上桜スポーツグラウンド」、さまざまな屋内スポーツに対応できるアリーナを有する「日本フネン市民プラザ」、国内初の施設となる「オプスタクルスポーツ吉野川コース」など、充実したスポーツ施設を活用しながら、市民の皆さまの健康増進と交

プロフィール

- ◆ 面積 144・14km²
- ◆ 人口 3万7274人
- ◆ 世帯数 1万7912世帯

〔将来都市像〕世代を越えて夢紡ぐまち
〔まちの特徴〕吉野川の豊かな水と四国山地の自然の恵みに育まれた、川と緑のふれあうまち

〔市町村合併〕平成16年10月1日、鴨島町、川島町、山川町、美郷村3町1村が合併

〔特産品〕スイートコーン「甘々娘」、かんかんむすめ



吉野川市長
原井 敬



ナス、洋ニンジン、ニンニク、ブロッコリー、菜の花、梅干し、梅酒
〔観光〕四国八十八箇所霊場第11番札所藤井寺、江川湧水源、善入寺島、川島城、阿波和紙伝統産業会館、船窪つじ公園、美郷のホタル、高開の石積み、母衣暮露滝
〔イベント〕阿波踊り、五九郎まつり、吉野川マルシェ、菊人形・菊花展、最後まで残った空海の道ウオーク、美郷梅酒まつり、美郷梅の花まつり

流人口拡大によるにぎわい創出に努めています。
市制20周年の節目の年を終えて、これまでの歩みを振り返りながら次の10年を見据えた中長期的な視点に立ち、EBPM（証拠に基づく政策立案）の取り組みを推進するなど、今後も持続可能な地域を実現するために全力で取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。